

家庭科教育と小学生の家庭生活の実態に関する研究

第 1 報

「家庭」分野について

清 水 歌

Homemaking Education and Home-living of
the Schoolchildren. I.

The Field of "Home"

Uta SHIMIZU

Received October 7, 1972

I 緒 言

本研究は、小学生が家庭科で学習した内容を、どの程度、日常家庭生活において実践しているかを（地域別・学年別）知ることによって、カリキュラムの構成・学習指導計画・学習指導法などを再検討するための資料の一つとして役立てることを目的として行ったものである。昨今の激動する時代にそくした家庭科教育の在り方の研究及びその発展の一助となることを願うものである。

なお、本報では調査のうち、児童の「生活の状況」「持物の整理・整頓」「家人としての仕事の協力分担」「金銭問題」について報告する。

II 調査の方法

1, 調査地域の選出とその概況

被調査地域は静岡市とし、次の5地域に分けた。(1)住宅地域 (2)商業地域 (3)農林業地域 (4)工業地域 (5)新興住宅地域である。これらの地域の特色を得るために、家族構成・家族人数・主婦の年令構成・主婦の職業の有無・家庭の職業についても調査を行った。その結果は、表1～表5に示すとおりである。

- (1) 住宅地域……職業は会社員・公務員などが著しく多い。
- (2) 商業地域……他地域に比して商店経営・サービス業に従事する家庭が多い。
- (3) 農林業地域……農林業に従事する家庭が非常に多い。
- (4) 工業地域……木工業などの家内工業に従事する家庭が多い。
- (5) 新興住宅地域……会社員・公務員・商店経営・農林業など、他の地域に比べると広範な職業に従事している。（数年前までは静岡市の近郊地であったのが、最近団地などが建設

され住宅地に変化したためである。)

家族構成(表2)については「全体」では両親のそろっている核家族が多い。「地域別」では「農林業地域」「商業地域」は直系尊属を含む三世帯にわたる家族「HIO」+「OIO」が核家族と、ほぼ同じ比率を占めている。

家族人数(表3)については「住宅地域」「商業地域」は4～5人であるが、他の3地域は分布が広い。

主婦の年齢構成(表4)については「住宅地域」「商業地域」は30才であるが、他の3地域は

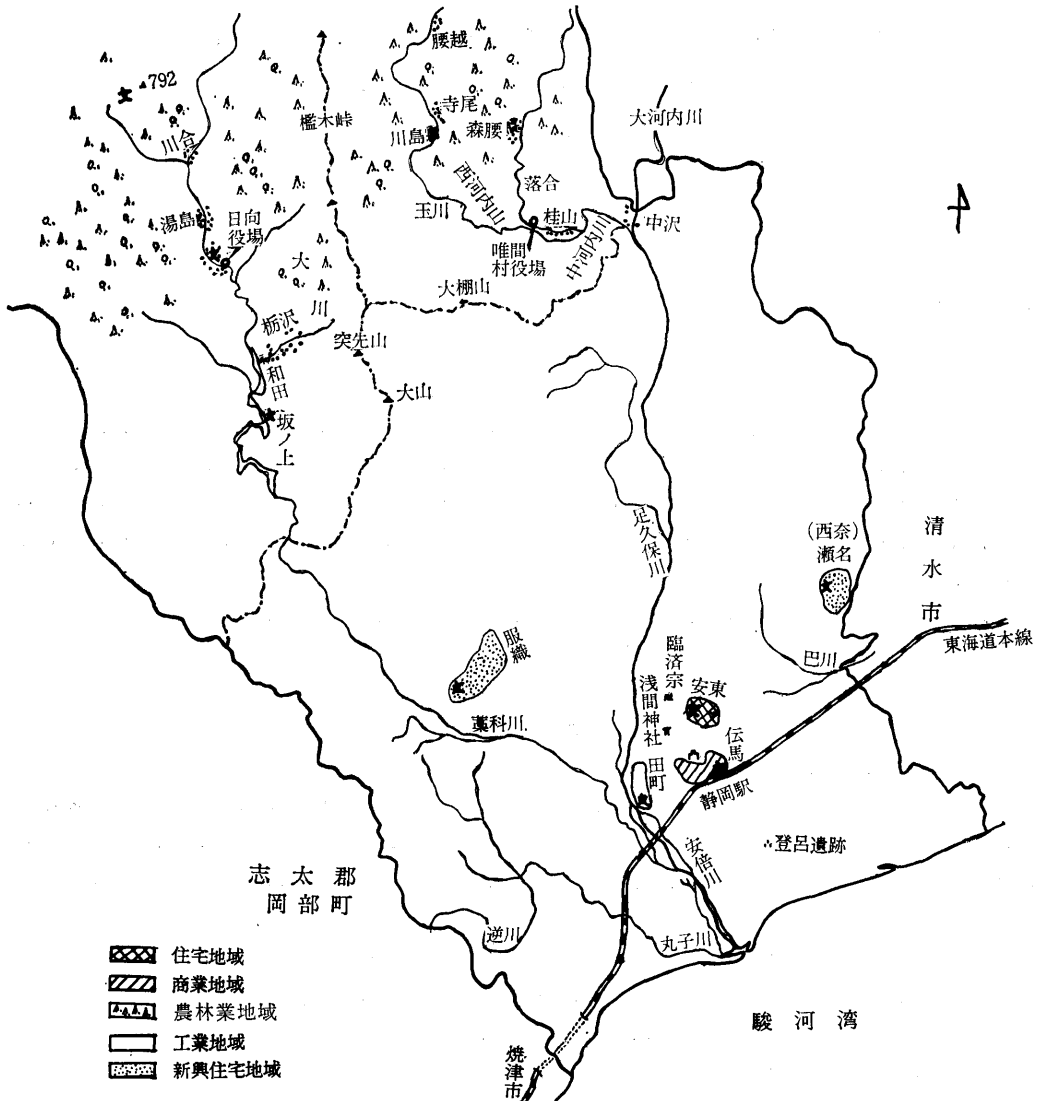


図1 静岡市略地図

表 1 家 族 構 成

（ ）は%

地域別 家族構成	住 宅	商 業	農林業	工 業	新興住宅	全 体
I I O	11 (4.4)	30 (14.9)	25 (23.2)	29 (12.1)	30 (12.8)	125 (12.1)
O I O	30 (12.0)	51 (25.4)	25 (23.2)	34 (14.1)	30 (12.8)	170 (16.5)
O O O	1 (0.4)	3 (1.5)	8 (7.4)	2 (0.8)	0	14 (1.4)
I O O	1 (0.4)	2 (1.0)	1 (0.9)	2 (0.8)	0	6 (0.6)
O X O	0	1 (0.5)	0	1 (0.4)	0	2 (0.2)
I X O	0	0	0	0	0	0
I O	199 (79.3)	110 (54.7)	47 (43.5)	160 (67.0)	160 (68.4)	676 (65.4)
O O	9 (3.6)	4 (2.0)	2 (1.9)	11 (4.6)	14 (6.0)	40 (3.9)
合 計	251 (100)	201 (100)	108 (100)	239 (100)	234 (100)	1033 (100)

(注) I I O 祖父母・両親・こども
 O I O 祖父又は祖母・両親・こども
 O O O 祖父又は祖母・片親・こども
 I O O 祖父母・片親・こども
 O X O 祖父又は祖母・こども
 I X O 祖父母・こども
 I O 両親・こども
 O O 片親・こども

表 2 家 族 人 数

（ ）は%

地域別 人 数	住 宅	商 業	農林業	工 業	新興住宅	全 体
2	0	3 (1.5)	0	2 (0.8)	3 (1.3)	8 (0.8)
3	20 (8.0)	12 (6.0)	5 (4.6)	14 (5.9)	18 (7.7)	69 (6.7)
4	134 (53.4)	70 (34.8)	10 (9.3)	75 (31.4)	96 (41.0)	385 (37.3)
5	62 (24.7)	47 (23.4)	36 (33.3)	74 (31.0)	48 (20.5)	267 (25.9)
6	20 (8.0)	38 (18.9)	31 (28.7)	44 (18.4)	32 (13.7)	165 (16.0)

7	11 (4.4)	12 (6.0)	22 (20.4)	24 (10.0)	26 (11.1)	95 (9.2)
8	3 (1.2)	11 (5.5)	3 (2.8)	1 (0.4)	7 (3.0)	25 (2.4)
9	1 (0.4)	5 (2.5)	1 (0.9)	4 (1.7)	3 (1.3)	14 (1.4)
10	0	2 (1.0)	0	0	0	0 (0.2)
11	0	1 (0.5)	0	1 (0.4)	1 (0.4)	3 (0.3)
合 計	251 (100)	201 (100)	108 (100)	239 (100)	234 (100)	1033 (100)

表 3 主婦の年齢構成

()は%

地域別 構成年齢(才)	住 宅	商 業	農林業	工 業	新興住宅	全 体
21 ~ 25	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0.5)	1 (0.1)
26 ~ 30	2 (0.9)	1 (0.5)	0 (0)	2 (0.9)	2 (1.0)	7 (0.7)
31 ~ 35	59 (25.2)	37 (18.6)	25 (25.4)	58 (27.0)	50 (24.8)	229 (24.1)
36 ~ 40	123 (52.1)	111 (55.8)	40 (40.4)	103 (47.9)	110 (54.5)	487 (51.3)
41 ~ 45	46 (19.7)	38 (19.1)	27 (27.3)	32 (14.9)	33 (16.3)	176 (18.7)
46 ~ 50	4 (1.7)	10 (5.0)	7 (7.1)	16 (7.4)	4 (1.9)	41 (4.3)
51 以上	0 (0)	2 (1.0)	0 (0)	4 (1.9)	2 (1.0)	8 (0.8)
合 計	234 (100)	199 (100)	99 (100)	215 (100)	202 (100)	949 (100)

表 4 主婦の職業の有無

()は%

地域別 主婦の職業	住 宅	商 業	農林業	工 業	新興住宅	全 体
就 職	33 (16.8)	28 (14.1)	22 (22.9)	41 (17.8)	76 (34.7)	200 (21.2)
内 職	9 (4.6)	2 (1.0)	2 (2.1)	41 △(17.8)	19 (8.9)	73 (7.8)
自 営	17 (8.6)	53 (26.6)	53 (55.2)	70 (30.3)	51 (23.3)	244 (25.9)

無 職	138 (70.1)	116 (58.3)	19 (19.8)	79 (34.2)	73 (33.3)	425 (45.1)
合 計	197 (100)	199 (100)	96 (100)	231 (100)	219 (100)	942 (100)

表 5 家 庭 の 職 業

()は%

地域別 職 種	住 宅	商 業	農林業	工 業	新興住宅	全 体
教 員	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
会 社 員	113 (46.1)	60 (29.9)	16 (14.8)	47 △(19.8)	80 (36.4)	316 (31.3)
医 者	2 (0.8)	5 (2.5)	3 (2.8)	0 (0)	0 (0)	10 (1.0)
公 務 員	68 (27.8)	12 (6.0)	4 (3.7)	12 (5.1)	29 (13.2)	125 (12.4)
農 林	5 (2.0)	0 (0)	70 (64.8)	0 (0)	33 (15.0)	108 (10.7)
サ ー ビ ス	4 (1.6)	33 16.4	1 (0.9)	2 (0.8)	6 (2.7)	46 (4.6)
自 営	16 (6.5)	29 (14.4)	3 (2.8)	98 (41.4)	19 (8.6)	165 (16.3)
商 店	12 (4.9)	46 (22.9)	3 (2.8)	26 (11.0)	11 (5.0)	98 (9.7)
無 職	1 (0.4)	1 (0.5)	1 (0.9)	5 (2.1)	3 (1.4)	11 (1.1)
技 術	13 (5.3)	10 (5.0)	4 (3.7)	42 (17.7)	36 (16.4)	105 (10.4)
そ の 他	11 (4.5)	5 (2.5)	3 (2.8)	5 (2.1)	3 (1.4)	27 (2.7)
合 計	245 (100)	201 (100)	108 (100)	237 (100)	220 (100)	1011 (100)

分布が広がっている。なお、これらの主婦の職業（表5）については、「住宅地域」「商業地域」においては、家事に専念するものの占める割合が多く、工業・農林業・新興住宅地域においては、自ら職業をもったり、家業の手伝いをするなど有職の主婦の占める割合が多い。

2. 調査の方法

(1) 被調査者……被調査地域から標準校と思われるものを原則として一校ずつ抽出し、その学校の5・6年生の男・女児童1069人を対象とした。（表6参照）

(2) 調査の時期……昭和46年9月1日～7日

(3) 方法……質問紙法と若干の聞き込み調査法とを併用した。質問紙法は1学級を単位と

表 6 調査用紙配布状況

地 域 別	依 頼 校 名 (小 学 校)	依 頼 数		
		5年生	6年生	合 計
住 宅 地 域	安 東 小	123	133	256
商 業 地 域	青 葉 小	91	119	210
農 林 業 地 域	大 川 小	49	65	114
	玉 川 小			
工 業 地 域	田 町 小	124	122	246
新 興 住 宅 地 域	西 奈 小	128	115	243
	ハ 服 ト 織 小			
合 計		515	554	1069

し、調査員が質問用紙を配布し、本人にその場で記入させた。回収率は100%、有効率97%であった。

(4) 質問事項……家庭科で学習した事項の中から、児童の日常家庭生活に関係の深いと思われるものを選出し、次の4項目とした。① 児童の日常家庭生活に関するもの（ア.生活時間 イ.起床状態 ウ.衣類の置き方 エ.着物の着がえ方 オ.通学着の選択法）② 持ち物の整理整頓 ③ 家族の一員としての仕事の協力・分担¹⁾（ア.おつかい イ.清掃 ウ.食事の準備・後片づけ）④ 金銭の使い方

III 結果とその考察

1. 児童の日常家庭生活に関するもの

(1) 生活時間 表7に示すとおりで、「全体」では「別に区切っていない」が著しく多く、各地域にも共通している。これと関連のある事項が^{6,7)} 道徳教育の項目にもかかげられており、とくに、中・高学年においては時間の有効な使い方や、きまりある生活をするものの指導があげられている。したがって、これらと、いっそう関連を密にして児童の生活の中に時間に対する計画性・合理的な使用法が、少しでも多く定着するような指導のくふうがなされれば、より望ましいと思われる。

(2) 起床状態 表8に示すとおりで、「全体」では「時々起こしてもらう」が約50%で、「毎日ひとりで起きる」が約30%である。各地域ともよく似ている。

(3) 衣類の置き方 表9・表10に示すとおりで、上着（表9-1）については、「全体」

表 7 生 活 時 間

()は%

地域別 項 目	住 宅	商 業	農林業	工 業	新興住宅	全 体
区切って毎日 実行している	22 (8.7)	17 (8.5)	2 (1.8)	13 (5.4)	10 (4.2)	64 (6.1)
区切っている がその通りに できない	60 (23.6)	75 (37.3)	25 (22.5)	48 (19.8)	47 (19.5)	255 (24.4)
別に区切って いない	169 (66.5)	107 (53.2)	82 (73.9)	179 (74.0)	172 (72.4)	709 (67.9)
無 答	3 (1.2)	2 (1.0)	2 (1.8)	2 (0.8)	9 (3.8)	18 (1.7)
合 計	254 (100)	201 (100)	111 (100)	242 (100)	238 (100)	1046 (100)

表 8 起 床 状 態

()は%

地域別 項 目	住 宅	商 業	農林業	工 業	新興住宅	全 体
毎日ひとりで 起きる	78 (30.7)	56 (27.9)	29 (26.1)	72 (29.8)	75 (31.5)	310 (29.5)
時々起こして もらう	134 (52.8)	99 (49.3)	55 (49.5)	133 (55.0)	121 (50.8)	542 (51.8)
毎朝起こして もらう	41 (16.1)	43 (21.4)	22 (19.9)	34 (14.0)	31 (13.0)	170 (16.3)
そ の 他	1 (0.4)	1 (0.5)	1 (0.9)	2 (0.8)	3 (1.3)	9 (0.8)
無 答	0 (0)	2 (1.0)	4 (3.6)	1 (0.4)	8 (3.4)	19 (1.8)
合 計	254 (100)	201 (100)	111 (100)	242 (100)	238 (100)	1051 (100)

では「たたむ」「洗たく場に置く」「脱っぱなし」の順に多い。「洗たく場に置く」はよいと思われる。「脱っぱなし」の多いのは、余り好ましくない。「たたむ」といことは、一見行儀がよいように感じられるが、少なくともこの調査を行った時点では、「たたむ」ことは衣類整理上の点からだけみても好ましくない。「農林業地域」では「脱っぱなし」が他の地域に比して多いが、「ハンガーにかける」がこれに次いで多い。この点ではよいと思う。児童の学習に際して、着物の形態・衣類整理などの点から適切な指導が行われることを望む。学年別に比較してみたが大差はない。また、男女別（表9-2）に比較を行ったが、「全体」「地域別」とともに「たたむ」は女子に多く「脱っぱなし」は女子には著しく少ない。

下着（表10-1）については、「全体」では「汚れたら洗たく場にもってゆく」が著しく多い。「地域別」では各地域とも同じ傾向を示している。また、学年別にみると6年生のほうが多い。これは5年生で学習したことが生活の中に次第に定着してきている現われとみるこ

表 9-1 上 着 の 置 き 方（地域別・学年別）

（ ）は％

項 目	地 域 別						学 年 別	
	住 宅	商 業	農 林 業	工 業	新 興 住 宅	全 体	5 年 生	6 年 生
脱ぎっぱなし	26 (10.2)	44 (21.9)	42 (37.8)	56 (23.1)	50 (21.0)	218 (20.8)	100 (19.8)	118 (21.8)
ハンガーにかける	55 (21.7)	31 (15.4)	27 (24.3)	29 (12.0)	28 (11.8)	170 (16.3)	63 (12.5)	137 (19.8)
た た む	103 (40.6)	73 (36.3)	18 (16.2)	64 (26.4)	67 (28.2)	325 (31.1)	151 (29.9)	164 (30.3)
洗たく場に置く	73 (28.7)	50 (24.9)	42 (37.8)	86 (35.5)	91 (38.2)	342 (32.7)	188 (37.2)	154 (28.5)
そ の 他	30 (11.8)	18 (9.0)	8 (7.2)	21 (8.7)	19 (8.0)	96 (9.2)	46 (9.1)	50 (9.2)
調 査 人 員	254	201	111	242	238	1046	505	541

（注） 1人が1項目以上解答しているのがある

表 9-2 上 着 の 置 き 方（男女別）

（ ）は％

項 目	住 宅		商 業		農 林 業		工 業		新 興 住 宅		全 体	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
脱ぎっぱなし	18 (13.5)	8 (6.6)	29 (31.5)	15 (13.8)	22 (40.7)	20 (35.1)	42 (32.8)	14 (12.3)	45 (37.8)	5 (4.2)	156 (29.7)	52 (10.0)
ハンガーにかける	25 (18.7)	30 (24.8)	7 (7.6)	24 (20.0)	5 (9.3)	22 (38.6)	6 (4.7)	23 (20.2)	6 (5.0)	22 (18.5)	49 (9.3)	121 (23.3)
た た む	42 (31.6)	61 (50.4)	27 (29.3)	47 (43.1)	0 (0)	18 (31.6)	26 (20.4)	38 (33.3)	21 (17.6)	46 (38.7)	115 (22.9)	21 (40.4)
洗たく場に置く	38 (28.6)	35 (28.9)	25 (27.2)	25 (22.9)	21 (38.9)	21 (36.8)	49 (38.3)	37 (32.5)	45 (37.8)	46 (38.7)	178 (33.9)	164 (31.5)
そ の 他	17 (12.8)	13 (10.7)	11 (11.3)	7 (6.4)	4 (7.4)	4 (7.0)	8 (6.3)	13 (11.4)	7 (5.9)	12 (10.1)	47 (8.9)	49 (9.4)
調 査 人 員	113	121	92	109	54	57	128	114	118	119	525	520

（注） 1人が1項目以上解答しているのがある。

とができるであろう。男女別（表10-2）にみると、女子のほうが著しく多い。

（4）着物の着がえ方 下着について調査したのであるが（表11）「全体」では「自分で気がついて着がえる」が著しく多い。そこでこれを選んだ児童の家庭環境をみた。家族構成（表12-1）については、全体では、「IO」が最も多い。「地域別」では「商業地域」「農林業地域」では「OIO」「IIO」がこれに次いで他地域よりも若干多くなっている。（注、記号については表1を参照のこと）家族数（表12-2）については、「全体」では、4～5人が多。「地域別」では、「農林業地域」においては5～7人が、「工業地域」「新興住宅地域」においては4～6

表 10-1 下着の置き方（地域別・学年別）

（ ）は%

項目	地域別	全 地 域						学 年 別	
		住 宅	商 業	農林業	工 業	新興住宅	全 体	5 年生	6 年生
脱ぎっぱなし		19 (7.5)	10 (5.0)	16 (14.4)	19 (7.9)	25 (10.5)	89 (8.5)	54 (10.7)	35 (6.5)
た た む		44 (17.3)	16 (8.0)	3 (2.7)	8 (3.3)	17 (7.1)	88 (8.4)	43 (8.5)	45 (8.3)
汚れたら母に渡す		17 (6.7)	18 (9.0)	15 (13.5)	38 (11.1)	22 (9.2)	110 (10.5)	65 (12.9)	45 (8.3)
汚れたら洗たく場にもってゆく		191 (75.2)	156 (77.6)	74 (66.7)	173 (71.5)	165 (69.3)	759 (72.6)	351 (69.5)	408 (75.4)
そ の 他		19 (7.5)	12 (6.0)	5 (4.5)	16 (6.6)	9 (3.8)	61 (5.8)	27 (5.3)	34 (6.3)
調 査 人 員		254	201	111	242	238	1046	505	541

（注） 1人が1項目以上解答しているのがある。

表 10-2 下着の置き方（男・女別）

（ ）は%

項目	地域別 男 女 別		住 宅		商 業		農 林 業		工 業		新興住宅		全 体	
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
脱ぎっぱなし			15 (11.3)	8 (6.6)	6 (6.5)	15 (13.8)	14 (25.9)	20 (35.1)	42 (32.8)	14 (12.3)	45 (37.8)	5 (4.2)	156 (29.7)	52 (10.0)
た た む			18 (13.5)	30 (24.8)	9 (9.8)	24 (20.0)	0 (0)	22 (38.6)	6 (4.7)	23 (20.2)	6 (5.0)	22 (18.5)	49 (9.3)	121 (23.3)
汚れたら母に渡す			13 (9.8)	61 (50.4)	10 (10.9)	47 (43.1)	7 (13.0)	18 (31.6)	26 (20.4)	38 (33.3)	21 (17.6)	46 (38.7)	115 (22.9)	210 (40.4)
汚れたら洗たく場にもってゆく			85 (65.4)	35 (28.9)	63 (68.5)	25 (22.9)	30 (55.6)	21 (36.8)	49 (38.3)	37 (32.5)	45 (37.8)	46 (38.7)	178 (33.9)	164 (31.5)
そ の 他			10 (7.5)	13 (10.7)	6 (6.5)	7 (6.4)	2 (3.7)	4 (7.0)	8 (6.3)	13 (11.4)	7 (5.9)	12 (10.1)	47 (8.9)	49 (9.4)
調 査 人 員			113	121	92	109	54	57	128	114	118	119	525	520

（注） 1人が1項目以上解答しているのがある。

表 11 着物の着がえ方

（ ）内は%

項目	地域別	住 宅	商 業	農林業	工 業	新興住宅	全 体
ア. 家の人に言われて着かえる		34 (13.4)	14 (7.0)	14 (12.6)	29 (12.0)	35 (14.7)	126 (12.0)
イ. 自分で気がついて着かえる		204 (80.3)	163 (81.1)	88 (79.3)	157 (64.9)	176 (74.0)	788 (75.3)

ウ. そ の 他	26 (10.2)	25 (12.4)	5 (4.5)	61 (25.2)	22 (9.2)	139 (13.3)
エ. 無 答	4 (1.6)	1 (0.5)	4 (3.6)	1 (0.4)	8 (3.4)	19 (1.8)
調 査 人 員	254	201	111	242	238	1046

(注) 1人で1項目以上解答しているのがある。

表 12-1 家 族 構 成

()内は%

地域別 家族構成	住 宅	商 業	農林業	工 業	新興住宅	全 体
I I O	9 (4.4)	25 (15.3)	20 (22.7)	21 (13.4)	23 (13.1)	98 (12.4)
O I O	24 (11.8)	42 (25.8)	10 (11.4)	22 (14.0)	22 (12.5)	120 (15.2)
O O O	1 (0.5)	2 (1.2)	3 (3.4)	2 (1.3)	0 (0)	8 (1.0)
I O O	1 (0.5)	1 (0.6)	0 (0)	2 (1.3)	0 (0)	4 (0.5)
O X O	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0.6)	0 (0)	1 (0.1)
I X O	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
I O	161 (78.9)	90 (55.2)	38 (43.2)	100 (63.7)	123 (69.9)	512 (65.0)
O O	8 (3.9)	3 (1.8)	17 (19.3)	9 (5.7)	8 (4.5)	45 (5.7)
合 計	204 (100)	163 (100)	88 (100)	157 (100)	176 (100)	788 (100)

(注) 「表 12-1」～「表 12-4」は「表 11」でイ.と解答した児童の家庭環境を示したものである。

表 12-2 家 族 人 数 別

()は%

地域別 人 数	住 宅	商 業	農林業	工 業	新興住宅	全 体
2	0 (0)	2 (1.2)	0 (0)	1 (0.6)	1 (0.6)	4 (0.5)
3	17 (8.3)	10 (6.1)	3 (3.4)	5 (3.2)	14 (8.0)	49 (6.2)
4	109 (53.4)	56 (34.4)	7 (8.0)	51 (32.5)	70 (39.8)	293 (37.2)
5	53 (26.0)	39 (23.9)	32 (36.3)	46 (29.3)	27 (15.3)	197 (25.0)

6	14 (6.9)	31 (19.0)	25 (28.4)	31 (19.7)	33 (18.7)	134 (17.0)
7	8 (3.9)	11 (6.7)	18 (20.5)	18 (11.5)	22 (12.5)	77 (9.8)
8	2 (1.0)	9 (5.5)	2 (2.3)	3 (1.9)	6 (3.4)	22 (2.8)
9	1 (0.5)	3 (1.8)	1 (1.1)	2 (1.3)	2 (1.1)	9 (1.1)
10	0 (0)	1 (0.6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0.1)
11	0 (0)	1 (0.6)	0 (0)	0 (0)	1 (0.6)	2 (0.2)
合 計	204 (100)	163 (100)	88 (100)	157 (100)	176 (100)	788 (100)

表 12-3 主 婦 の 年 令

()は%

地域別 年令(才)	住 宅	商 業	農林業	工 業	新興住宅	全 体
12 ~ 25	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
26 ~ 30	1 (0.5)	1 (0.6)	0 (0)	1 (0.6)	1 (0.6)	4 (0.5)
31 ~ 35	53 (26.0)	27 (16.6)	21 (23.9)	38 (24.2)	40 (22.7)	179 (22.5)
36 ~ 40	96 (47.1)	94 (57.7)	31 (35.2)	63 (40.1)	78 (44.3)	362 (45.9)
41 ~ 45	37 (18.1)	32 (19.6)	23 (26.1)	24 (15.3)	27 (15.3)	143 (18.1)
46 ~ 50	2 (1.0)	6 (3.7)	8 (9.1)	11 (7.0)	4 (2.3)	31 (3.9)
51 以上	0 (0)	2 (1.2)	1 (1.1)	1 (0.6)	2 (1.1)	6 (0.8)
無 答	15 (7.4)	1 (0.6)	4 (4.5)	19 (12.1)	24 (13.6)	63 (8.9)
合 計	204 (100)	163 (100)	88 (100)	157 (100)	176 (100)	788 (100)

人が多いのは、その地域の特色を表わしているものと思われる。主婦の年令（表12-3）については、「全体」では30才代が多い。「地域別」では「商業地域」は36～40才、「農林業地域」は31～45才、「工業地域」「新興住宅地域」は31～40才が多いのは各地域の特色の一端が現われていると思われる。主婦の職業（表12-4）については、「全体」では「無職」が最も多いが「就職」「自営」もかなり多い。「地域別」では、「住宅地域」は無職が最も多く、他の地

域は、さまざまである。

(5) 通学着の選択法 この項では「選択者」と「選んだ着物が不満なときの態度」について質問し、さらにこれを男女別について調べた。「通学着の選択者」(表13)については、「全体」では「自分が選ぶが総数の50%を占め、「母が選ぶ」は非常に少ない。「その他」の内わけは、「父」「祖母」「姉」「親戚の人」などがあげられている。「選んだ着物が不満なときの児童(表13のア.とウ.とに答えたもの)の態度」について調査した結果は表14-1に示すとおりである。「母が選んだ」場合(表14-2)と「母と自分とで選んだ」場合(表14-3)について、それぞれ男児女児別にみた。「母が選ぶ」と答えたものの総数は、男児のほうが女児よりも、はるかに多い。(表14-2参照)「全体」では「がまんをして着る」児童が男児女

表 12-4 主婦の職業

()は%

地域別 主婦の職業	住 宅	商 業	農林業	工 業	新興住宅	全 体
就 職	37 (18.1)	23 (14.1)	26 (29.5)	27 (17.2)	57 (32.4)	170 (21.6)
内 職	12 (5.9)	0 (0)	2 (2.3)	21 (13.4)	17 (9.7)	52 (6.6)
自 営	16 (7.8)	48 (29.4)	44 (50.0)	54 (34.4)	40 (22.7)	202 (25.6)
無 職	131 (64.2)	91 (55.8)	15 (17.0)	47 (29.9)	53 (30.1)	337 (42.8)
無 答	8 (3.9)	1 (0.6)	1 (1.1)	8 (5.1)	9 (5.1)	27 (3.4)
合 計	204 (100)	163 (100)	88 (100)	157 (100)	176 (100)	788 (100)

表 13 通学着の選択者

()は%

地域別 選択法	住 宅	商 業	農林業	工 業	新興住宅	全 体
ア. おかあさんが選ぶ	33 (13.0)	33 (16.4)	27 (24.3)	24 (9.9)	31 (13.0)	148 (14.1)
イ. 自分で選ぶ	131 (51.6)	82 (40.8)	64 (57.7)	117 (48.3)	137 (57.6)	531 (50.8)
ウ. おかあさんと自分とで選ぶ	91 (35.8)	84 (41.8)	21 (18.9)	79 (32.6)	63 (26.5)	338 (32.3)
エ. その他	5 (2.0)	3 (1.5)	3 (2.7)	29 (12.0)	3 (1.3)	43 (4.1)
オ. 無 答	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (1.6)	4 (0.4)
調 査 人 員	254	201	111	242	238	1064

(注) 1人で1項目以上解答しているのがある。

表 14-1 選んだ着物が不満なときの態度（）内は％

地 域 別 態 度	住 宅		商 業		農 林 業		工 業		新興住宅		全 体	
ア. 気にいらなくとも着る	55 (43.7)		54 (46.2)		21 (43.8)		41 (40.6)		49 (52.1)		220 (45.3)	
イ. 気にいらなければ着ない	48 (38.1)		48 (41.0)		13 (27.1)		42 (41.6)		30 (31.9)		181 (37.4)	
ウ. そ の 他	16 (12.9)		10 (8.5)		6 (12.5)		9 (8.8)		4 (4.3)		45 (9.3)	
エ. 無 答	7 (5.6)		5 (4.3)		8 (16.7)		9 (8.8)		11 (11.7)		40 (8.2)	
合 計	126 (100)		117 (100)		48 (100)		101 (100)		94 (100)		486 (100)	

(注) 表 13 のア. ウ. と解答したものについて行う。

表 14-2 母 が 選 ん だ 場 合 () は ％

地 域 別 態 度 男 女 別	住 宅		商 業		農 林 業		工 業		新興住宅		全 体	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
がまんして着る	13 (52.0)	6 (75.0)	18 (66.7)	1 (14.3)	6 (35.3)	7 (70.0)	7 (36.8)	2 (40.0)	10 (41.7)	5 (71.4)	54 (48.2)	21 (56.8)
着 な い	6 (24.0)	1 (12.5)	6 (22.2)	4 (57.1)	3 (17.6)	0 (0)	11 (57.9)	1 (20.0)	8 (33.3)	1 (14.3)	34 (30.3)	7 (18.9)
そ の 他	3 (12.0)	1 (12.5)	1 (3.7)	1 (14.3)	2 (11.8)	3 (30.0)	0 (0)	2 (40.0)	2 (8.3)	0 (0)	8 (7.1)	7 (18.9)
無 答	3 (12.0)	0 (0)	2 (7.4)	1 (14.3)	6 (35.3)	0 (0)	1 (5.3)	0 (0)	4 (16.7)	1 (14.3)	16 (14.3)	2 (5.4)
合 計	25 (100)	8 (100)	27 (100)	7 (100)	17 (100)	10 (100)	19 (100)	5 (100)	24 (100)	7 (100)	112 (100)	37 (100)

表 14-3 母と自分とで選んだ場合 () は ％

地 域 別 態 度 男 女 別	住 宅		商 業		農 林 業		工 業		新興住宅		全 体	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
がまんして着る	12 (30.8)	24 (44.4)	13 (40.6)	21 (40.4)	4 (36.4)	4 (40.0)	16 (42.1)	16 (41.0)	10 (47.8)	24 (57.1)	55 (39.0)	89 (45.2)
着 な い	23 (59.0)	18 (33.3)	14 (43.8)	24 (46.2)	6 (54.5)	4 (40.0)	17 (44.7)	13 (33.3)	7 (33.3)	14 (33.3)	67 (47.5)	73 (37.1)
そ の 他	3 (7.7)	9 (16.7)	3 (9.4)	5 (10.0)	0 (0)	1 (10.0)	2 (5.3)	5 (12.8)	2 (9.5)	0 (0)	10 (7.1)	20 (10.2)
無 答	1 (2.6)	3 (5.6)	2 (6.3)	2 (3.8)	1 (9.1)	1 (10.0)	3 (7.9)	5 (12.8)	2 (9.5)	4 (9.5)	9 (6.4)	15 (7.6)
合 計	39 (100)	54 (100)	32 (100)	52 (100)	11 (100)	10 (100)	38 (100)	39 (100)	21 (100)	42 (100)	141 (100)	197 (100)

児ともに多く、どちらかといえば女兒のほうが多い。「地域別」では、「工業地域」の男児は「着ない」が最も多い。これは、昔からこの地域に伝わる気質とでもいうものを受け継いでいるのではなからうかと思われるが、その理由については明らかでない。「その他」の項では、「気に入ったのと取りかえる」とか「家で着ることにする」などというのものもある。「母と自分とで選ぶ」（表14-3）については、「全体」では「がまんして着る」というのは女兒に多く、「着ない」というのは男児に多い。「地域別」では一概に言うことはできない。

以上、二つの質問に対する解答の結果から次のようなことが考えられる。母が選んだものに対して、ほとんどの児童が、がまんをして着るという生活態度には^{6,7)}、「自分や世の中のために尽してくれる人に対して尊敬し感謝する」（特に低学年においては、自分の世話をしてくれる人や……に対して尊敬し感謝する……）」という道德教育に示されている項目の指導が定着していることが、こうした態度の現われの一つとなっているのではないかと考えられるであろう。母と自分とで選んだものに対して「着ない」と答えている児童は、少なくともその着物を選択する時に、自分にもその責任の一部があることを忘れているのか、或は気まぐれやわがままが、そうした行為となって現われているのであろうかと思われる。道德教育では、権利・義務・責任について学習する項目があり、低学年においては「自分の行動に対して責任をもつ」という学習も既に行われているはずである。が、自由と責任との関連を考えさせる学習は高学年において行われることになっている。そして、この項目の学習が児童の生活の中に定着するには日時を要することも考えられる。また、家庭科における学習の時期が、或は道德教育の学習時期よりも先行しているかもしれないとも思われる。なお、着物の選択というものは、かなり複雑な要素を持つものであるから、この年令のこどもだけで適切な選択がなし得られるかどうかは危まれる。また、母親と共に選ぶにしても、母親の助言の有無・その取り入れ方の程度などにも関係することが多く、こうした点ではむしろ家庭教育の影響も大であると思われる。なお、「着物の選択」に関する学習は6年生の二学期以降に学習する計画がなされているため、本調査の時点ではまだ未学習の段階であったということも併せて考慮しなければならないであろうと思う。しかし、このように現状を把握した以上は、それをふまえて、家庭科・道德教育、家庭教育などと密接な関係を取りつつ、より適切な指導が行われるように配慮しなければならないことは言うまでもないことである。

2. 持物の整理・整頓

「持物の整理・整頓」については、その頻度と方法について調査した。「頻度」（表15）については、「全体」では「気のむいたときにする」が著しく多く「地域別」でも同様である。「方法」については児童の身近なもの、主に学用品（書物類）・運動用具について質問した。その結果は表16に示すとおりである。全体では「同じ大きさのものをそろえる」「本とノートを別々にする」「毎日使う本とそうでないものとに分ける」というのが他の項目に比べると、かなり多い。すなわち、物の大きさ・形態や使用の頻度によって分類することは、かなり実行されているようであるが、用途別・重量別などによって分類する方法は案外実行されていない。これは、用途別・重量別などによって整理をするような経験を、児童が自分の生活の中に持つことが少ないためなのか、或はなるべく外観の整っていることがよいと思っているのか、その点については、はっきりわからない。物の整理・整頓についても^{6,7)}道德教育でも学習している

ので、その学習成果の影響をうけていることは言うまでもないと思う⁴⁾。用途別・重量別などによる分類法についても適切な機会を得て指導するのが望ましいと思われる。

表 15 持物の整理・整頓 ()は%

地域別 頻 度	住 宅	商 業	農林業	工 業	新興住宅	全 体
毎 日 す る	27 (10.6)	35 (17.4)	6 (5.4)	29 (12.0)	27 (11.3)	124 (11.9)
日を決めてす る	28 (11.0)	13 (6.5)	0 (0)	28 (11.6)	18 (7.6)	87 (8.4)
気のむいたと きにする	174 (68.5)	136 (67.7)	97 (87.4)	162 (66.9)	165 (69.3)	734 (70.2)
ほとんどしな い	13 (5.1)	16 (8.0)	5 (4.5)	19 (7.9)	15 (6.3)	68 (6.5)
全然しない	2 (0.8)	1 (0.5)	2 (1.8)	3 (1.2)	8 (3.4)	16 (1.5)
無 答	10 (3.9)	0 (0)	1 (0.9)	1 (0.4)	5 (2.1)	17 (1.5)
合 計	254 (100)	201 (100)	111 (100)	242 (100)	238 (100)	1046 (100)

表 16 整理・整頓の方法 ()は%

地域別 方 法	住 宅	商 業	農林業	工 業	新興住宅	全 体
同じ大きさの 本をそろえる	134 (52.8)	71 (35.3)	49 (44.1)	79 (32.6)	99 (41.6)	432 (41.3)
毎日使う本と そうでないも のとに分ける	105 (41.3)	91 (45.3)	48 (43.2)	97 (40.1)	80 (33.6)	421 (40.2)
本とノートを 別々にする	121 (47.6)	68 (33.8)	34 (30.6)	89 (36.8)	85 (35.7)	397 (37.9)
教科ごとに本 とノートに分 ける	42 (16.5)	30 (14.2)	17 (15.3)	52 (21.5)	35 (14.7)	176 (16.8)
重い本は下に 置く	47 (18.5)	34 (16.9)	13 (11.7)	32 (13.2)	18 (7.6)	144 (13.8)
用具を毎日使う ものとそうでな いものにわける	98 (38.6)	70 (34.8)	22 (19.8)	92 (38.0)	64 (26.9)	346 (33.1)
運動具は袋に 入れる	124 (48.8)	114 (56.7)	33 (29.7)	86 (35.5)	79 (33.2)	436 (41.7)
そ の 他	7 (2.8)	3 (1.5)	2 (1.8)	1 (0.4)	3 (1.3)	16 (1.5)
調 査 人 員	254	201	111	242	238	1046

(注) 1人で1項目以上解答しているのがある。

3. 家族の一員としての協力・分担

(1) おつかい 「頻度」と「種類」について質問した。その結果は表 17, 表 18 に示すとおりである。「種類」については「全体」「地域別」とも「食料品」が最も多く、それ以外のものについても、5地域ともよく似ている。「その他」のところでは「薬を買いにゆく」「両替をする」「飲み物を買いにゆく」「仕立て物を届けにゆく」などがあげられている。

表 17 「おつかい」をした頻度

()は%

地域別 頻 度	住 宅	商 業	農林業	工 業	新興住宅	全 体
毎日1回はする	49 (19.3)	30 (14.9)	13 (11.7)	44 (18.2)	35 (14.7)	171 (16.3)
時々する	182 (71.7)	157 (78.1)	83 (74.8)	178 (73.6)	178 (74.8)	778 (74.4)
めったにしない	17 (6.7)	10 (5.0)	13 (11.7)	15 (6.2)	13 (5.5)	68 (6.5)
ぜんぜんしない	4 (1.6)	3 (1.5)	0 (0)	2 (0.8)	5 (2.1)	14 (1.3)
無 答	2 (0.8)	1 (0.5)	2 (1.8)	3 (1.2)	7 (2.9)	15 (1.4)
合 計	254 (100)	201 (100)	111 (100)	242 (100)	238 (100)	1046 (100)

表 18 おつかいの種類

()内は%

地域別 種 類	住 宅	商 業	農林業	工 業	新興住宅	全 体
食 料 品	220 (86.6)	173 (86.1)	86 (77.5)	206 (85.1)	151 (63.4)	836 (79.5)
た ば こ	138 (54.3)	111 (55.2)	43 (38.7)	160 (66.1)	88 (37.0)	541 (51.6)
回覧板をもつてゆく	161 (63.4)	110 (54.7)	67 (60.4)	154 (63.6)	132 (55.5)	623 (59.7)
雑 貨	121 (47.6)	97 (48.3)	31 (27.9)	130 (53.7)	87 (37.4)	468 (44.7)
郵便物の投函	136 (53.5)	107 (53.2)	32 (28.8)	115 (47.5)	81 (34.0)	471 (45.0)
クリーニング屋の受け渡し	43 (16.9)	27 (13.4)	2 (1.8)	21 (8.7)	11 (4.6)	104 (9.9)
そ の 他	7 (2.8)	10 (5.0)	1 (0.9)	9 (3.7)	2 (0.8)	29 (2.8)
調 査 人 員	254	201	111	242	238	1046

(注) 1人で1項目以上解答しているのがある。

(2) 清掃 「頻度」については表19に示すとおりである。「全体」「地域別」ともに「時々する」が最も多い。そこで、「時々する」と答えたものについて清掃を行う場所及び家庭環境について質問した。① 清掃場所（表20）については、「全体」では「部屋」が最も多く、次いで机が多い。「地域別」では「新興住宅地域」を除く4地域は、ほぼ同じ傾向を示してい

表 19 清掃を行う頻度 ()は%

地域別 頻 度	住 宅	商 業	農林業	工 業	新興住宅	全 体
ア. 毎日する	12 (4.7)	23 (11.4)	4 (3.6)	17 (7.0)	14 (5.9)	70 (6.7)
イ. 時々する	193 (76.0)	130 (64.7)	77 (69.4)	175 (72.3)	184 (77.3)	759 (72.6)
ウ. めったに しない	40 (15.7)	37 (18.4)	17 (15.3)	46 (19.0)	29 (12.2)	169 (16.2)
エ. ぜんぜん しない	5 (2.0)	7 (3.5)	5 (4.5)	3 (1.2)	6 (2.5)	26 (2.5)
オ. 不 明 確	2 (0.8)	3 (1.5)	1 (0.9)	1 (0.4)	3 (1.3)	10 (1.0)
カ. 無 答	2 (0.8)	1 (0.5)	7 (6.3)	0 (0)	2 (0.8)	12 (1.1)
合 計	254 (100)	201 (100)	111 (100)	242 (100)	238 (100)	1046 (100)

表 20 清掃を行う場所 ()は%

地域別 場 所	住 宅	商 業	農林業	工 業	新興住宅	全 体
ア. 廊 下	81 (42.0)	26 (20.0)	16 (20.8)	48 (27.4)	61 (33.1)	232 (30.6)
イ. 庭	56 (29.0)	17 (13.1)	31 (40.3)	38 (21.7)	45 (24.5)	187 (24.6)
ウ. ガ ラ ス	29 (15.0)	11 (8.5)	3 (3.9)	26 (19.4)	21 (11.4)	90 (11.9)
エ. 部 屋	168 (87.0)	94 (72.3)	45 (58.4)	144 (82.3)	146 (39.3)	597 (78.7)
オ. 戸 棚	9 (4.7)	12 (9.2)	6 (7.8)	7 (4.0)	16 (8.7)	50 (6.6)
カ. 机	111 (57.5)	61 (46.9)	35 (45.5)	76 (43.4)	72 (39.1)	355 (46.8)
キ. そ の 他	23 (11.9)	13 (10.0)	2 (2.6)	16 (9.1)	11 (6.0)	65 (8.6)
調 査 人 員	193	130	77	175	134	759

(注1) 「表19」でイ.と解答したものについて行う。

(注2) 1人1項以上解答しているのがある。

るが、「農林業地域」では「庭」が、「住宅地域」では「廊下」の清掃がかなりの割合を示している。また、「新興住宅地域」では「廊下」「部屋」「机」がほぼ同じ割合を示している。これらはいずれも、家屋の構造からくるもので、各地域の特色を現わしていると思われる。なお、「その他の場所」としてあげられているものに、「玄関(9)」「土間(5)」「階段(10)」「浴室」などがあるが、「農林業地域」にはあげられていない。次に「清掃」に協力・分担する児童の家庭環境について質問した結果は表21に示すとおりである。家族構成（表21-1）については、「全体」「地域別」とともに「I O」が最も多い。家族人数（表21-2）については、「全体」では4～5人が多い。「地域別」では「住宅地域」「商業地域」では「全体」と同じであるが、他の3地域は分布が広がっている。主婦の年齢（表21-3）については「全体」では30才代が多い。「地域別」では「農林業地域」では31～45才が多い。主婦の職業（表21-4）については、「全体」では「無職」が多い。「地域別」では「住宅地域」「商業地域」では「全体」と同じであるが、他の3地域においては、必ずしも同じではない。「農林業地域」にあっては、成人は概して外に出て働くことが多く、「工業地域」「新興住宅地域」では、有職の主婦のほうが無職のものより多いため、清掃作業はこどもの仕事として与えられ、しかもそれは、児童が家族の一員として協力・分担するにふれわしいものであると考えられる。一方、家事に専念できる無職の主婦の占める割合の多い「住宅地域」「商業地域」においても、これがこどもの仕事として与えられているのは、生活の必要性からよりもむしろ家庭教育の面から、その意義と重要性とが認められてのことと思われる。また、学校における^{6,7)} 道德教育の学習成

表 21-1 家 族 構 成 ()は%

地域別 家族構成	住 宅	商 業	農林業	工 業	新興住宅	全 体
I I O	9 (4.7)	19 (14.6)	15 (19.5)	22 (12.3)	25 (13.6)	90 (11.9)
O I O	24 (12.4)	33 (25.4)	17 (22.1)	25 (14.3)	24 (13.0)	123 (16.2)
O O O	1 (0.5)	3 (2.3)	4 (5.2)	2 (1.1)	0 (0)	10 (1.3)
I O O	0 (0)	0 (0)	1 (1.3)	1 (0.6)	0 (0)	2 (0.3)
O X O	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0.6)	1 (0.5)	2 (0.3)
I X O	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
I O	152 (78.7)	71 (54.7)	38 (49.3)	118 (67.4)	123 (66.8)	502 (66.1)
O O	7 (3.6)	4 (3.1)	2 (2.6)	6 (3.4)	11 (6.0)	30 (4.0)
合 計 (%)	193 (100)	130 (100)	77 (100)	175 (100)	184 (100)	759 (100)

(注) 「表21-1」～「表21-4」は「表19」でイ.と答えたものの家庭環境

表 21-2 家 族 人 数 ()は%

地域別 人数(人)	住 宅	商 業	農林業	工 業	新興住宅	全 体
2	0 (0)	2 (1.5)	0 (0)	0 (0)	2 (1.1)	4 (0.5)
3	17 (8.8)	10 (7.7)	3 (3.9)	9 (5.1)	17 (9.2)	56 (7.4)
4	105 (54.4)	46 (35.4)	7 (9.1)	55 (31.4)	73 (39.7)	286 (37.7)
5	47 (24.4)	29 (22.3)	29 (37.7)	54 (30.9)	37 (20.1)	196 (25.8)
6	13 (6.7)	25 (19.2)	23 (29.9)	33 (18.9)	27 (14.7)	121 (15.9)
7	9 (4.7)	9 (6.9)	11 (14.3)	16 (9.1)	20 (10.9)	65 (8.6)
8	2 (1.0)	5 (3.8)	3 (3.9)	3 (1.7)	4 (2.2)	17 (2.2)
9	0 (0)	2 (1.5)	1 (1.3)	4 (2.3)	2 (1.1)	9 (1.2)
10	0 (0)	2 (1.5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0.3)
11	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0.6)	2 (1.1)	3 (0.4)
合 計	193 (100)	130 (100)	77 (100)	175 (100)	184 (100)	759 (100)

表 21-3 主 婦 の 年 令 ()は%

地域別 年令(才)	住 宅	商 業	農林業	工 業	新興住宅	全 体
21 ~ 25	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
26 ~ 30	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (1.1)	2 (0.3)
31 ~ 35	47 (24.4)	26 (20.0)	23 (29.9)	47 (26.9)	38 (20.7)	181 (23.8)
36 ~ 40	94 (48.7)	68 (52.3)	27 (35.1)	71 (40.6)	88 (47.8)	348 (45.9)
41 ~ 45	33 (17.1)	31 (23.8)	17 (22.1)	25 (14.3)	27 (14.7)	133 (17.5)
46 ~ 50	2 (1.0)	3 (2.3)	6 (7.8)	13 (7.4)	4 (2.2)	28 (3.7)
51 以上	0 (0)	1 (0.8)	0 (0)	4 (2.3)	2 (1.1)	7 (0.9)

無 答	17 (8.8)	1 (0.8)	4 (5.2)	15 (8.6)	23 (12.6)	60 (7.9)
合 計	193 (100)	130 (100)	77 (100)	175 (100)	184 (100)	759 (100)

表 21-4 主婦の職業

()は%

地域別 主婦の職業	住 宅	商 業	農林業	工 業	新興住宅	全 体
就 職	34 (17.7)	18 (13.8)	23 (29.9)	29 (16.9)	60 (32.6)	164 (21.6)
内 職	13 (6.7)	1 (0.8)	1 (1.3)	31 (17.7)	14 (7.6)	60 (7.9)
自 営	12 (6.2)	38 (29.2)	35 (45.5)	51 (29.1)	40 (21.7)	176 (23.2)
無 職	126 (65.3)	72 (55.4)	16 (20.8)	60 (34.2)	62 (33.7)	336 (44.3)
無 答	8 (4.1)	1 (0.8)	2 (2.6)	4 (2.3)	8 (4.3)	23 (3.0)
合 計	193 (100)	130 (100)	77 (100)	175 (100)	184 (100)	759 (100)

表 22 清掃の方法

()は%

地域別 方 法	住 宅	商 業	農林業	工 業	新興住宅	全 体
は た く	82 (32.7)	111 (55.2)	22 (19.8)	80 (33.1)	73 (30.7)	368 (35.2)
掃 く	163 (64.2)	114 (56.7)	79 (71.2)	192 (79.3)	170 (71.4)	71.8 (68.6)
み が く	69 (27.2)	30 (14.9)	8 (7.2)	36 (14.9)	45 (18.9)	188 (17.9)
ふ く	136 (53.5)	108 (53.7)	46 (41.4)	128 (52.9)	119 (50.0)	537 (51.3)
ごみを捨てる	144 (56.7)	128 (63.7)	56 (50.5)	132 (54.5)	119 (50.0)	579 (55.4)
そ の 他	41 (16.7)	27 (13.4)	9 (8.1)	5 (2.1)	18 (7.6)	100 (9.5)
調 査 人 員	254	201	111	242	238	1046

(注) 1人で1項目以上解答しているのがある。

果などの影響を受けていることも忘れてはならないと思う。② 清掃の方法 (表22) については、「全体」では、「掃く」「ふく」「ごみを捨てる」などが多く「地域別」でもよく似ている。ただし「はたく」作業は「商業地域」に多く、「農林業地域」に目立って少ないのは、「商業

表 23 清 掃 用 具

（ ）は%

地域別 用具の種類	住 宅	商 業	農林業	工 業	新興住宅	全 体
は た き	91 (35.8)	62 (30.8)	35 (31.5)	87 (36.0)	68 (28.5)	343 (32.8)
ほ う き	136 (53.5)	109 (54.2)	76 (68.5)	160 (66.1)	138 (58.0)	619 (59.3)
電気掃除機	172 (67.7)	102 (50.7)	34 (30.6)	111 (45.9)	130 (54.6)	549 (52.5)
モ ッ プ	31 (12.2)	16 (8.0)	5 (4.5)	17 (7.0)	15 (6.3)	84 (8.1)
雑 巾	136 (53.5)	108 (53.7)	62 (55.9)	131 (54.1)	90 (37.8)	527 (50.5)
ち り と り	74 (29.1)	81 (40.3)	44 (39.6)	99 (40.9)	60 (25.2)	358 (34.3)
バ ケ ッ	65 (25.6)	43 (21.4)	44 (39.6)	80 (33.1)	45 (18.9)	277 (22.6)
乾 布	35 (13.8)	20 (10.0)	5 (4.5)	27 (11.2)	17 (7.1)	104 (9.9)
ダ ス キ ン	86 (33.9)	50 (24.9)	10 (9.0)	54 (22.3)	70 (29.4)	270 (25.7)
そ の 他	4 (1.6)	7 (3.5)	2 (1.8)	2 (0.8)	3 (1.3)	18 (1.7)
調 査 人 員	254	201	111	242	238	1046

(注) 1人で1項目以上解答しているのがある。

表 24 食事の準備・後片づけ

（ ）は%

地域別 頻 度	住 宅	商 業	農林業	工 業	新興住宅	全 体
ア. 毎日する	31 (12.2)	24 (11.9)	6 (5.4)	35 (14.5)	34 (14.3)	130 (12.4)
イ. 時々する	180 (70.9)	132 (65.7)	72 (64.9)	167 (69.0)	160 (67.2)	711 (68.0)
ウ. めったに しない	35 (13.8)	35 (17.4)	18 (16.2)	30 (12.5)	30 (12.6)	148 (14.1)
エ. ぜんぜん しない	8 (3.1)	9 (4.5)	14 (12.6)	8 (3.3)	14 (5.9)	53 (5.1)
オ. 無 答	0 (0)	1 (0.5)	1 (0.9)	2 (0.8)	0 (0)	4 (0.4)
合 計	254 (100)	201 (100)	111 (100)	242 (100)	238 (100)	1046 (100)

表 25 手伝いをする時期

()は%

地域別 時 期	住 宅	商 業	農林業	工 業	新興住宅	全 体
朝 食	9 (3.5)	11 (5.5)	2 (1.8)	10 (4.1)	17 (7.1)	49 (4.7)
夕 食	151 (59.4)	115 (57.2)	49 (44.1)	141 (58.3)	128 (53.8)	584 (55.8)
決っていない	79 (31.1)	53 (26.4)	36 (32.4)	77 (31.8)	72 (30.3)	317 (30.3)
そ の 他	1 (0.4)	4 (2.0)	2 (1.8)	3 (1.2)	4 (1.7)	14 (1.3)
無 答	14 (5.4)	18 (9.0)	22 (19.9)	11 (4.5)	17 (7.1)	82 (7.8)
合 計	254 (100)	201 (100)	111 (100)	242 (100)	238 (100)	1046 (100)

表 26 手伝いの種類（表 24. イ. と答えたものについて）

()は%

地域別 作業の種類	住 宅	商 業	農林業	工 業	新興住宅	全 体
食卓を台ふき でふく	171 (67.3)	107 (53.2)	36 (32.4)	158 (65.3)	162 (68.1)	634 (60.6)
食器を戸棚から だす	129 (50.8)	98 (48.8)	38 (34.2)	116 (47.9)	135 (56.7)	516 (49.3)
茶わんなどを 食卓に並べる	173 (68.1)	118 (58.7)	51 (45.9)	162 (66.9)	153 (64.3)	657 (62.8)
料理を食卓に 運ぶ	144 (56.7)	104 (51.7)	39 (35.1)	148 (61.2)	125 (52.5)	560 (53.5)
料理を食卓に 並べる	131 (51.6)	88 (43.8)	34 (30.6)	112 (46.3)	117 (49.2)	482 (46.1)
料理を盛りつ ける	69 (27.2)	43 (21.4)	29 (26.1)	51 (21.1)	72 (30.3)	264 (25.2)
食べた後の食 器をお盆にの せる	67 (26.4)	50 (24.9)	17 (15.3)	53 (21.9)	61 (25.6)	248 (23.7)
食器を流し台 に運ぶ	163 (64.2)	120 (59.7)	41 (36.9)	148 (61.2)	147 (61.8)	619 (59.2)
食 器 を 洗 う	91 (35.8)	72 (35.8)	37 (33.3)	94 (38.8)	97 (40.8)	391 (37.4)
食 器 を ふ く	79 (31.1)	60 (29.9)	22 (19.8)	56 (23.1)	85 (35.7)	302 (28.9)
食器を戸棚に しまう	50 (19.7)	47 (23.4)	16 (14.4)	47 (19.4)	60 (25.2)	220 (21.0)

調味料など戸棚にしまう	91 (35.8)	58 (28.9)	22 (19.8)	89 (36.8)	77 (32.4)	337 (32.2)
そ の 他	7 (2.8)	8 (4.0)	2 (1.8)	5 (2.1)	7 (2.9)	29 (2.8)
調 査 人 員	254	201	111	242	238	1046

(注) 1人で1項目以上解答しているのがある。

地区」は埃っぽくなりやすく、「農林業地域」は大気汚染の度が少ないためか、その必要性が少ないのであろうと思われる。③ 清掃用具（表23）については、「全体」では「ほうき」「電掃除機」「ぞうきん」が多い。電気掃除機が普及している今日においても、児童が家庭で使用する掃除用具には「ほうき」がより多い。「地域別」では「農林業地帯」では「電気掃除機」の使用が目立って少ない。こうした結果の生じた理由は、電気掃除機が、この年令の児童には使いこなせないことと思われる。すなわち、最近のものは次第に大型化しているために、運搬が容易でないこと。また、操作は簡単であっても、その性能を十分に発揮するように使用できないこと。それが経済面にも直結するなどの理由からではなからうかと思われる。とくに「農林業地域」においては、こどもには使用させることを少なくしている。また、ぞうきんの使用は「新興住宅地域」に少ない。これは、おそらく建築材料・住宅様式などの影響によるものではないかと思われる。

(3) 食事の準備・後片づけ 「頻度」「時期」「手伝いの種類」とについて質問した。「頻度」「時期」についての結果は、表24・表25に示すとおりである。「頻度」については「時々する」が「全体」「地域別」とともに多い。そこで「時々する」と答えた児童について、「手伝いの種類」について質問した結果は表26のとおりである。「全体」では、「食卓を台ふきでふく」「食器を戸棚からだす」「茶わんなどを食卓に並べる」「料理を食卓に運ぶ」「料理を食卓に並べる」「食器を流しに運ぶ」が、かなり多い。「地域別」では、「農林業地域」は他の4地域に比して、どの項目も少ないが、それは、この地域の家族構成の特色が表われていて（表1参照）食事の準備は祖母の担当であることが多いために、こどもの手伝う必要が少ないのではないかと思われる。

5. 金銭の使い方

「お金をもらう機会」「お金のもらい方」「使い方」「小遣い帳のつけ方」について質問した。

お金をもらう機会（表27）については、「全体」では「小遣い」としてもらうのが最も多く、お年玉など臨時にもらうことが次に多い。「地域別」でもよく似ている。「お金のもらい方」（表28）については、「全体」では「毎日決ってもらう」が最も多い。地域別では「農林業地域」「工業地域」は、毎日とか毎週もらうことが多い。これは、現金収入の在り方が、他の地域と異なるのではなからうかと思われる。もらう金額については、「全体」「地域別」とともに「決めてもらう」が多い。「小遣いの使い方」（表29）については、「全体」では「菓子」の購入、「貯金」の多いのが目立つ。「地域別」でもよく似ているが、「農林業地域」「工業地域」では菓子の購入か他の地域に比して多い。これは、母親の職業が極度に忙がしいために、こどものおやつにまで気を配る余裕をもたないか、そうしたことに関心が少ないためか、いずれにしても、地域

の特色が現われているように思われる。最近市場では多くの菓子類が販売されているため、こどものおやつも、それらを利用することは必ずしも悪いとはいえないが、有害食品も販売されている現状であるから品質のよい菓子を選択する能力を十分に身につけさせるように指導しなければならないと思う。次に「貯金をする」児童の多いことに興味を感じた。そこで「貯金をする理由」について質問した。その結果は、「全体」では「将来のために」「価格の高いものを買うために」というのがかなりある。また、お金を貯めることに興味をもつものも若干ある。

表 27 お金をもらう機会

()は%

地域別 もらう機会	住 宅	商 業	農林業	工 業	新興住宅	全 体
お手伝いの駄賃として	68 (26.8)	30 (14.9)	32 (28.8)	89 (36.8)	57 (23.9)	276 (26.4)
小遣いとして	221 (87.0)	167 (83.1)	84 (75.7)	223 (92.1)	186 (78.2)	881 (84.2)
臨 時 (お年玉など)	184 (72.4)	140 (69.7)	62 (55.9)	182 (75.2)	135 (56.7)	703 (67.2)
もらわない	1 (0.4)	1 (0.5)	3 (2.7)	1 (0.4)	6 (2.5)	12 (1.1)
そ の 他	4 (1.6)	5 (2.5)	2 (1.8)	1 (0.4)	0 (0)	12 (1.1)
調 査 人 員	254	201	111	242	238	1046

(注) 1人で1項目以上解答しているのがある。

表 28 お金のもらい方

()内は%

地域別 もらい方	住 宅	商 業	農林業	工 業	新興住宅	全 体
毎 月	170 (66.9)	109 (54.2)	24 (21.6)	58 (24.0)	78 (32.8)	439 (41.9)
毎 週	37 (23.6)	50 (24.9)	24 (21.6)	100 (41.3)	56 (23.5)	257 (24.6)
毎 日	6 (2.4)	11 (5.5)	27 (24.3)	55 (22.7)	41 (17.2)	140 (13.4)
金額は決っている	20.5 (80.7)	154 (76.1)	51 (45.9)	18.5 (76.4)	135 (56.7)	730 (69.7)
金額は決っていない	14 (5.5)	14 (7.0)	19 (17.1)	37 (15.4)	31 (13.0)	115 (11.0)
必要なときに必要なだけもらう	13 (5.1)	18 (9.0)	10 (9.0)	12 (5.0)	9 (3.8)	62 (5.9)
そ の 他	4 (1.6)	6 (3.0)	4 (8.6)	9 (3.7)	3 (1.3)	26 (2.5)
調 査 人 員	254	201	111	242	238	1046

表 29 小遣いの使い方 ()は%

地域別 使い方	住 宅	商 業	農林業	工 業	新興住宅	全 体
文 具 類	119 (46.9)	102 (50.7)	30 (27.0)	103 (42.6)	95 (39.9)	449 (42.9)
ハンカチ・ソックス	8 (3.1)	13 (6.5)	12 (10.8)	8 (3.3)	8 (3.4)	49 (4.7)
パス代 (通学用)	15 (5.9)	18 (9.0)	10 (9.0)	5 (2.1)	10 (4.2)	58 (5.5)
雑 誌	84 (33.1)	87 (43.3)	29 (26.2)	104 (43.0)	82 (34.5)	396 (37.9)
貯 金	190 (74.8)	118 (58.7)	49 (44.1)	161 (66.5)	146 (61.3)	664 (63.5)
菓 子	173 (68.1)	136 (67.7)	82 (73.9)	211 (87.2)	163 (68.5)	765 (73.1)
そ の 他	42 (16.6)	46 (23.9)	11 (10.0)	48 (19.8)	17 (7.1)	165 (15.8)
調 査 人 員	254	201	111	242	238	1046

(注) 1人で1項目以上解答しているのがある。

表 30 小遣い帳の記帳 ()は%

地域別 記帳法	住 宅	商 業	農林業	工 業	新興住宅	全 体
毎日つける	28 (11.0)	9 (4.5)	2 (1.8)	14 (5.8)	10 (4.2)	63 (6.0)
つけているが 忘れることも ある	34 (13.4)	31 (15.4)	9 (8.1)	24 (9.9)	17 (7.1)	115 (11.0)
たまにつける	62 (24.4)	62 (30.8)	23 (20.7)	62 (25.6)	40 (16.8)	249 (23.7)
ぜんぜんつけ ない	112 (44.1)	96 (47.8)	71 (64.0)	137 (56.6)	161 (67.6)	577 (55.2)
無 答	18 (7.1)	3 (1.5)	6 (5.4)	5 (2.1)	10 (4.2)	42 (4.0)
合 計	254 (100)	201 (100)	111 (100)	242 (100)	238 (100)	1046 (100)

「方法」については一定の傾向をみることができない。「小遣い帳の記帳」(表30)については、「全体」では「全然つけない」が55%強を示めている。「地域別」でもよく似た傾向であるが、「農林業地域」「工業地域」「新興地域」ではとくに多い。金銭の使い方は「小遣い帳のつけ方」を含めて⁵⁾、家庭科において6年生の初期に学習が終了しているはずである。また道徳教育では「ものや金銭をだいじにし、じょうずに使う」という項目で、とくに、低・中学年でこれを

取り扱っている。また山下俊郎¹⁾は、「金銭教育と小づかい」について、その与え方のところで「3年生以上になったら半月か1か月毎に一定の期間を区切って与えるのがよい」と述べ、金額を定めること、定められた期間ごとに、必ず決った額ずつ与えることの必要性を述べている。さらに、「小づかい帳の管理と指導」の項に、小づかい帳をつけさせ金銭管理の指導をすることの必要かつ重要性を述べ、それが有効な消費生活の学習につながるものであること、また、「残った金を貯金することの重要性に言及し、少年時代から金銭教育を行うことは、その時から、社生活へ社会人として参加するための素地が用意されるのだ」と述べている。

また、P・ニッケル、J・M・ドーゼイはその共著「家庭生活の管理」の中に、主婦の役割の一つとして「こどもの能力の成長に従って、買い物の経験を彼らに計画し、手はずを定めてやらねばならない」²⁾ という意味のことを述べているが、これもまた家庭における金銭教育であると解することができるであろう。

IV 結 語

研究の結果を要約すれば次のとおりである。

1. 静岡市全体については、実践率は約65%であった。
2. 地域別では、各地域の特色をあらわしている。すなわち、「住宅地域」が最も高く「工業地域」「新興住宅地」がこれに次ぎ、「農林業地域」「商業地域」は低い。これらは各地域の家庭環境の影響によるものである。
3. 男児・女児別については明確な相異が認められない。
4. 今回取りあげた「家庭」の分野には、道德教育・家庭教育の協力を得て、家庭科教育の成果をあげ得る指導内容が豊富に存在している。したがって今後は、いっそう緊密な連絡をとって、研究を重ねてゆかねばならないことを痛感する次第である。

最後に本調査研究にご協力くださった鈴木久子教諭、宮川てる子教諭に深く感謝の意を表しますとともに、本研究にご便宜をお与えくださいました静岡市立安東・青葉・大川・玉川・田町・西奈・服織各小学校の校長先生・関係諸先生に厚く御礼申し上げます。

—参考文献—

- 1) 山下俊郎：家庭教育，光生館 昭和41年・金銭教育と家事の手伝い（p. 301～p. 318）。
- 2) P・ニッケル・J・ドーゼイ 氏家寿子訳：家庭生活の管理，家庭教育社。
- 3) 仙波千代：家庭科教育法，光生館 昭和47年。
- 4) 武田一郎 他：小学校家庭科教科書（学習指導書一般編）5年・6年用，開隆堂 昭和45年。
- 5) 小学校家庭科学習指導書（文部省），開隆堂 昭和46年。
- 6) 小学校学習指導要領（文部省）（p. 239～p. 244），大蔵省印刷局 昭和38年。
- 7) 小学校学習指導要領（昭和43年度改訂版）（文部省）（p. 189～p. 196），明治図書 昭和43年。
- 8) 静岡県のすがた：（静岡県企画調査部）昭和46年度版。

Summary

The questionnaire was examined to know how much the pupils of elementary school applied home-making education of their learning at school to the daily life. The investigation was carried out in Shizuoka City, which was divided into the following five areas: the residential area, the commercial area, the agriculture and forestry area, the industrial area and the newly developed housing area. The school boys and girls in the fifth and the sixth grades living in each area (1069 pupils in all) were inquired about the field of "home" by using the questionnaire method.

The results obtained are as follows

1. The rate of the practice of homemaking education is considerably large in all Shizuoka City.
2. The each rate shows the characteristics of the corresponding area: the rate of the practice in the residential area is the largest of all. And the rates in the industrial area, the newly developed area and the agriculture and forestry area follow it in the order of decrease. The rate in the commercial area is the smallest. The result suggests that the rate of the practice depends on the effect of the home environment in each area.
2. The difference between the practice of the schoolboys and that of the girls is not always decided.